



第36回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開されている関西の先生方にご講演をいただき、製薬、医療機器、診断薬、健康食品、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイマジネーションを感じていただくことを目的としています。

このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティの醸成と、産官学の対話促進につながるものと期待しています。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題をお聞きいただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：2023年7月3日（月）14:00—16:00

※13:30 受付開始

会場：グランフロント大阪北館 タワーC 8F

ナレッジキャピタルカンファレンスルーム C-05

<http://www.kc-space.jp/conference/items/towerC.pdf>

※今回より、オンライン配信はございません。

参加費：セミナー無料（交流会：1,000円）

主催：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議、公益財団法人都市活力研究所

共催：NPO 法人バイオグリッドセンター関西

後援：関西医薬品協会、バイオコミュニティ関西 (BiocK)

講演 I 14:00-15:00

「脳 AI 融合の臨床応用」

大阪大学 高等共創研究院 教授 柳澤 琢史 氏

AI の発達に伴い、脳信号からヒトの知覚認知内容や運動状態などを推定する脳情報解読技術も発達し、Brain-Computer Interface (BCI) の社会実装が現実的になった。我々は、頭蓋内脳波を用いてヒトの心的想起内容を推定し画面に出力する BCI や、失った腕を BCI で再建し幻肢痛を治療する BCI などの臨床応用を目指している。我々の研究成果を中心に、ニューロテックの現状と課題を紹介する。

講演Ⅱ 15:00-16:00

「T細胞の老化と再生」

京都大学 iPS 細胞研究所 副所長・教授／京都大学医学研究科 免疫生物学 教授 濱崎 洋子 氏

免疫老化は加齢にともなう免疫システムの変容を包括的に表現した用語であり、獲得免疫応答能の低下および炎症性素因と自己応答リスクの増大により特徴づけられる。T細胞は、抗体産生や食細胞の活性を制御し、ウイルス感染細胞やがん細胞を殺傷する免疫応答の中心を担うが、その産生臓器「胸腺」は、思春期をピークとして以降は脂肪に覆われながら小さくなり、機能低下をきたす。このため、T細胞は体内で長く維持される必要があり、大きく加齢の影響を受けるとされる。本講演では、我々が明らかにしてきた胸腺退縮機構に関する知見と、新型コロナワクチン接種後の免疫応答性を成人群と高齢者群で比較した最近の研究などを紹介しながら、T細胞老化の実態とその意義について議論したい。また、がんやウイルスの突然変異にも対応できる多様な反応性を持つT細胞の再生を目的とする、iPS細胞を用いた新たな取り組みについても紹介したい。

申込先：参加希望者は2023年6月30日（金）までに、NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議のホームページからお申込みください。

URL：<https://kinkibio.com/informations/3271>



こちらからもお申込みいただけます

問合先：NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（菅原、大嶋）
公益財団法人都市活力研究所 電話：06-6359-1322（西尾、味村）